



湯川村

防災マップ

安全で安心なむらづくり



〈保存版〉

村民の皆様へー安全安心な村であるためにー

本村は、会津盆地の真ん中に位置し、海、山に接していないことから津波や土砂災害による被害を受けることがなく、会津地方においては自然災害が少ない地域です。

しかしながら、村には阿賀川や日橋川、瀬川、旧湯川の4つの河川が流れており、過去には河川の氾濫^{はんらん}による災害も発生しています。現在では、河川の整備が進み、大規模な水害の危険性は低下していますが、近年の地球温暖化など自然環境の変化からいつ、異常気象による大災害が村を襲ってもおかしくない時代を迎えています。

未曾有の大災害となった東日本大震災をはじめ、近年多発している異常気象によって起こる災害は、発生する場所、時期、時間、被害範囲を予測することが非常に困難です。

そのため、村民一人ひとりが自らを守る「自助」、近隣で互いに助け合う「共助」、そして行政が行う「公助」の「三助」がそれぞれに連携した総合的な防災対策を構築していく必要があります。

今回、村では、災害時危険エリアや避難場所など、災害時の備えとして村民の皆様にご存知いただきたい様々な災害情報をまとめた「湯川村防災マップ」を作成しました。

是非、家庭内の目の届くところに大切に保管いただき、ご家族や地域における万一の災害対策に役立てていただきますようお願いします。

平成30年3月
湯 川 村

索引

村民の皆様へ・索引	1	非常時持出品の準備&チェック	9
避難行動ガイド	2	わが家の「防災・緊急情報」メモ	10
特別警報をご存知ですか？	3	避難場所・避難所・AED設置一覧・ ライフライン・行政機関連絡先など	11
風水害対策について	4	湯川村 全図(洪水ハザードマップ)	12
洪水ハザード情報について	5	詳細図 No.1	13・14
地震対策について	6	詳細図 No.2	15・16
火災対策について	7	磐梯山に関する火山情報について	17・18
わが家の防災対策&チェック	8		

避難行動ガイド

村では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」を発令し、皆さんに避難を促します。避難勧告などを発令するときは、様々な状況を総合的に判断して発令します。

避難とは・・・

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。

1 指定緊急避難場所・指定避難所への移動。	2 警戒区域等内の自宅などから移動し、安全な場所への避難。(公園、親戚や友人の家など)	3 近隣の強固で高い建物などへの移動。	4 建物内の安全な場所での待避。 (家屋内への垂直避難) やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへの移動が有効です。
屋外が安全で移動できる状態のとき			屋外が危険な状態のとき

避難行動に関しての行政発令の種類と、住民のみなさんの対応

避難勧告などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難勧告」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「**自主避難**」をお願いします。

区 分	立ち退き避難など住民のみなさんの行動
避難準備・高齢者等避難開始	・ 気象情報に注意を払い、立ち退き避難の必要について考える。 ・ 立ち退き避難が必要と判断する場合は、その準備と立ち退き避難をする。 ・ 要配慮者(障がい者や高齢者で避難行動が困難な人)は、この段階で立ち退き避難をする。
避難勧告	・ 非常時持ち出し品をもって、立ち退き避難をする。
避難指示(緊急)	・ 避難勧告を行なった地域のうち、立ち退き避難がまだの人は、立ち退き避難する。 ・ 立ち退き避難することが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保する。

※「**自主避難**」とは・・・避難勧告などを待たず、自主的に地区集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食料、飲物、日用品などを持参するようにしてください。

※雨が降り続いていたら、テレビ・ラジオ・スマートフォン・パソコンなどで最新の気象情報を入手しましょう。特に、河川氾濫の浸水想定区域にお住まいの方は、自分で早めに判断し、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる行動(**自主避難**)することが命を守ることになります。



避難の際には、ご近所にも声をかけあい、地域で協力し合う避難を心がけましょう。



お年寄りや体の不自由な方などの避難に協力しましょう。



インターネット・気象庁ホームページ



テレビ・ラジオ

大雨のとき

浸水被害の恐れがある区域に対して、村が設定している基準に達した場合に避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。また、避難準備・高齢者等避難開始が発令されずに避難勧告、避難指示(緊急)が発令される場合もあります。

※特に、河川氾濫の浸水区域にお住まいの方は、皆さんが早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる自主避難をすることが命を守ることになります。



地震のとき

大きな地震に伴って、多くの家屋が崩壊し、その後の余震により家屋が倒壊のおそれがあるとき、又は火災が発生して大規模な延焼拡大のおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

※直ちに指定避難所を開設するよう努めますが、時間がかかる場合があります。



火災のとき

大規模に延焼が拡大するおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。



その他

災害が発生するおそれがあるときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

特別警報をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 高潮になると予想される場合
高波	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

表中の「数十年に一度」の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

地震警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
地震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

特別警報が 発表されたら

- ・尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・
気象庁ホームページ



広報車

- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、気象庁HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4

電話：03-3212-8341 FAX：03-6689-2917 (耳の不自由な方向け)

気象庁ホームページ

<http://www.jma.go.jp>

特別警報について

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>

風水害対策について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、
確実な情報が大事
その次に迅速な対応



大雨注意報・ 警報の 発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こる
おそれがあると予測される場合。

- ・表面雨量指数(注1) 8
- ・土壌雨量指数(注2) 89

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる
おそれがあると予測される場合。

(浸水害)表面雨量指数11 (土砂災害)土壌雨量指数 -

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることによって、「ゲリラ豪雨」とも言われています。
発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、
気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意して
おきましょう！



注1 表面雨量指数：短時間強雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が地中にしみ込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

注2 土壌雨量指数：大雨による土砂災害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が土壌中にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

洪水ハザード情報について

H27年の水防法改正に基づき、阿賀川・日橋川で浸水域の公表がありました。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1

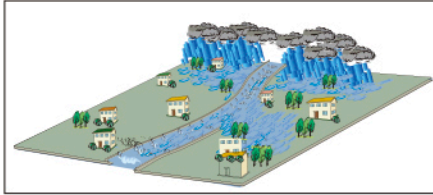
はん らん

氾濫の種類

- 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



2

説明(外水氾濫)

- この「マップ」で使用している洪水ハザード情報は、阿賀川・日橋川が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。



阿賀川・日橋川の改正後の目安

5.0m以上の区域	———
3.0m～以上の区域	2階の軒下まで浸水する程度
0.5～3.0m未満の区域	1階の全てが浸水する程度
0～0.5m未満の区域	大人の膝まで浸水する程度

3

洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意して行う予報。

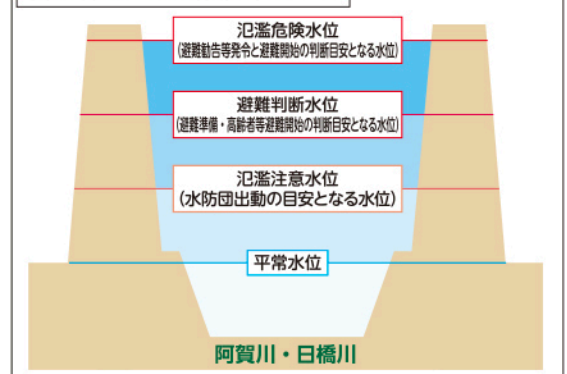
洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告して行う予報。

指定河川洪水予報など

- 阿賀川については、福島地方気象台が予測する降水量をもとに、河川を管理する国土交通省阿賀川河川事務所が河川水位の危険度を予測し、共同発表します。

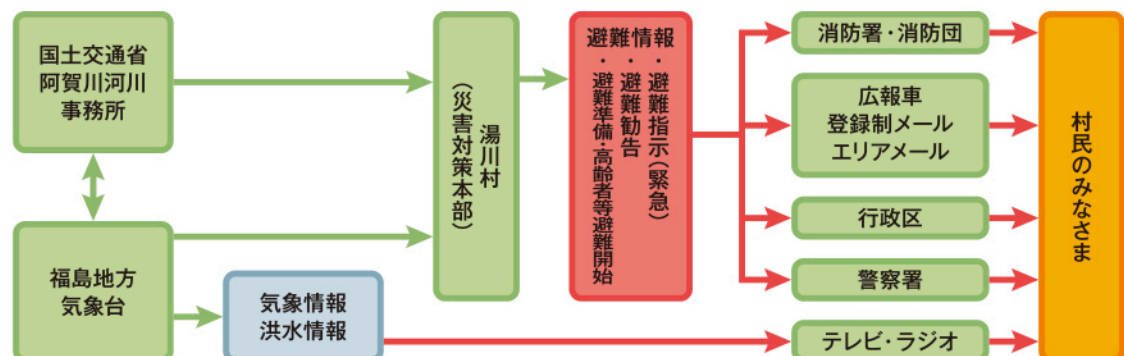
水位上昇にともなう判断基準イメージ



4

洪水情報伝達ルート

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

地震対策について 地震発生!そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

2~5分

とにかく自分の身を守ろう!

●地震だ!まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まず身を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

しっかり火の始末で、火災防止!

●大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。

わが家の安全の確認、確保!

●火の始末のあと

家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。

隣近所の安否確認、助け合い!

●外に出たあと

家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。

2、3日は自分でしのぐ!

●避難後、数日間

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。

5~10分

10分~半日

半日~3日

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



火災対策について 火災発生!そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1

早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな出火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2

早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3

早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。

消火器の使い方

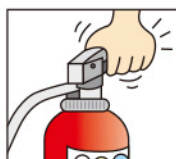
粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!!

火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

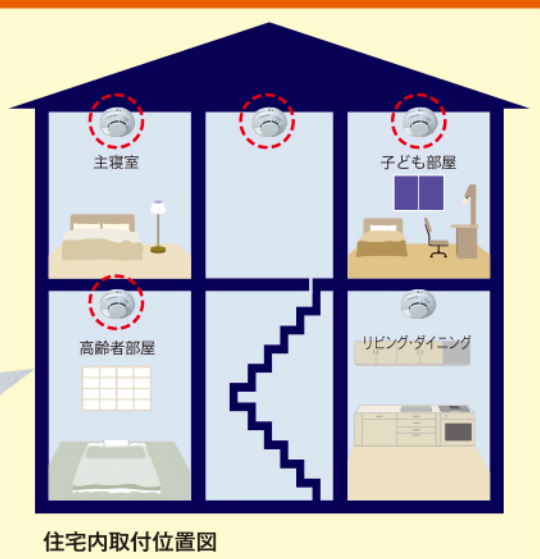
火災警報器の設置場所

- 寝 室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階 段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台 所…台所については、設置をおすすめします。

注意: 住宅用火災警報器は電池式のもの主流です。電池の寿命は5年から10年と言われていますので、早めの交換をお願いします。警報器の音を事前に確認することも重要です。



火災警報器



わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

1

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



3

□ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



2

□ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

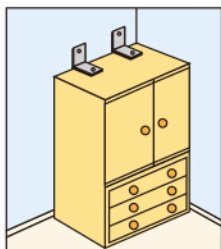
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

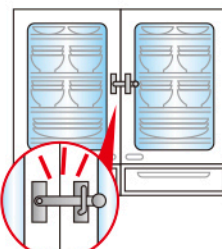
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



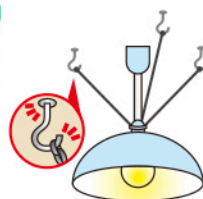
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



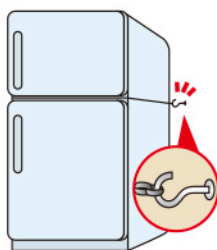
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



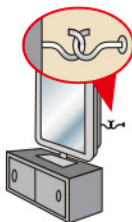
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



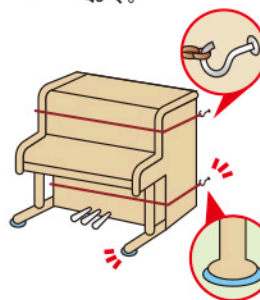
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

□ 屋根

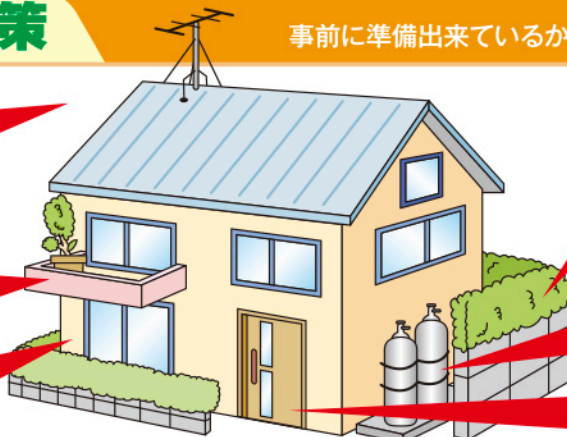
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



□ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

□ 非常口の確保

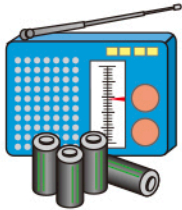
非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ☐ ラジオ
- ☐ 電池(多めに用意)

救急医療品



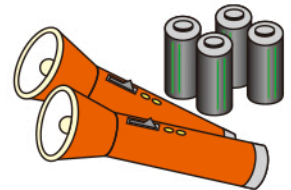
- ☐ 常備薬
- ☐ 絆創膏
- ☐ 傷薬
- ☐ 包帯
- ☐ 風邪薬
- ☐ 胃腸薬
- ☐ 鎮痛剤

貴重品



- ☐ 現金
- ☐ 印鑑
- ☐ 健康保険証
- ☐ 預貯金通帳
- ☐ 免許証
- ☐ 権利証書

懐中電灯



- ☐ 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- ☐ 電池(多めに用意)

非常食品等

- ☐ 非常用食品
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 離乳食
- ☐ 粉ミルク



その他

- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ 缶切り
- ☐ 紙皿
- ☐ 水筒
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ヘルメット
- ☐ 防災マップ(本書)
- ☐ タオル
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 栓抜き
- ☐ 紙コップ
- ☐ カップ
- ☐ ライター
- ☐ ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(一週間)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)又は貯水した防災タンクなど

非常食品



- ☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

その他



- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など

非常時持出品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さし、筆記用具(マジックなど)、スコップなど。



過去の震災時に役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、ボールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持出品は、使用するとき支障がないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限は早めにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

わが家の「防災・緊急情報」メモ



非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたい、わが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・村に情報を提供します。

氏 名		電 話	
住 所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族構成 連絡先	氏 名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住 所	メ モ

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏 名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関
【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報（介護情報・救急隊員への伝言など）をお書きください。					

緊急時 連絡先	氏 名	間柄	電 話	住 所	メ モ

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。NTT「災害用伝言板(web171)」との連携により、伝言内容を相互に確認が可能。

伝言の録音	171-1-0000-00-0000 (被災地の方の電話番号)	伝言保存期間	運用期間終了まで
伝言の再生	171-2-0000-00-0000 (被災地の方の電話番号)	伝言蓄積数	1電話番号あたり1~20件 (提供時にお知らせいたします)
伝言内容	1伝言あたり30秒以内	利用可能電話	固定電話、IP電話(050含む)、 携帯電話、PHS

避難場所・避難所・AED設置 一覧

平成30年3月現在

No.	名 称	住 所	掲載頁	避難場所	対応災害区分 地震 (内水害) 洪水 火山現象	避難所	福祉避難所	AED	備 考
①	湯川中学校	湯川村大字笈川字殿田37番地	P14・16	●	○	○	○	○	
②	笈川小学校	湯川村大字笈川字館24番地	P14	●	○	○	○	○	
③	勝常小学校	湯川村大字勝常字堂後827番地	P13・15	●	○	○	○	○	
④	湯川村体育館	湯川村大字清水田字川入3番地	P14・16	●	○	○	○	○	
⑤	湯川村公民館	湯川村大字清水田字長瀬17番地	P14・16	●	○	○	○	○	
⑥	ユースピアゆがわ	湯川村大字清水田字川入1番地	P14・16	●	○	○	○	○	
⑦	湯川村高齢者コミュニティセンター	湯川村大字清水田字川入8番地	P14・16	●	○	○	○	○	
⑧	湯川村保健センター	湯川村大字清水田字川入9番地	P14・16	●	○	○	○	○	
⑨	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	湯川村大字佐野目字五丁ノ目78番地1	P15	●	○	○	○	○	
⑩	湯川村中央運動広場	湯川村大字笈川字殿田7番地	P14・16	●	○				一時避難場所
⑪	湯川村笈川運動広場	湯川村大字笈川字館238番地	P14・16	●	○				一時避難場所
⑫	湯川村運動広場	湯川村大字三川字中台141番地	P13・15	●	○				一時避難場所
⑬	湯川村村営野球場	湯川村大字三川字的場50番地	P13・15	●	○				一時避難場所
⑭	特別養護老人ホーム いちようの木	湯川村大字佐野目字佐野北43番地	P15				●	○	必要に応じて開設

避難場所・避難所とは？



避難場所

災害発生後の一時避難場所として、学校のグラウンド・公園・公共施設などを指定しています。

避難所

災害による家屋の倒壊などで、居住場所を確保できなかった人たちの収容保護を目的として、物資の運搬・集積・炊事・宿泊などの利便性を考慮したうえで、学校・公民館・公共建築物などを指定しています。

福祉避難所

避難生活が困難な高齢者や障がい者、妊婦など、その他特に配慮を要する方のための避難所として指定しています。

避難が必要になったときにはまず「避難場所」へ、その後は「避難所」へと状況に応じて速やかに行動出来るように心がけましょう！

ライフライン・行政機関連絡先

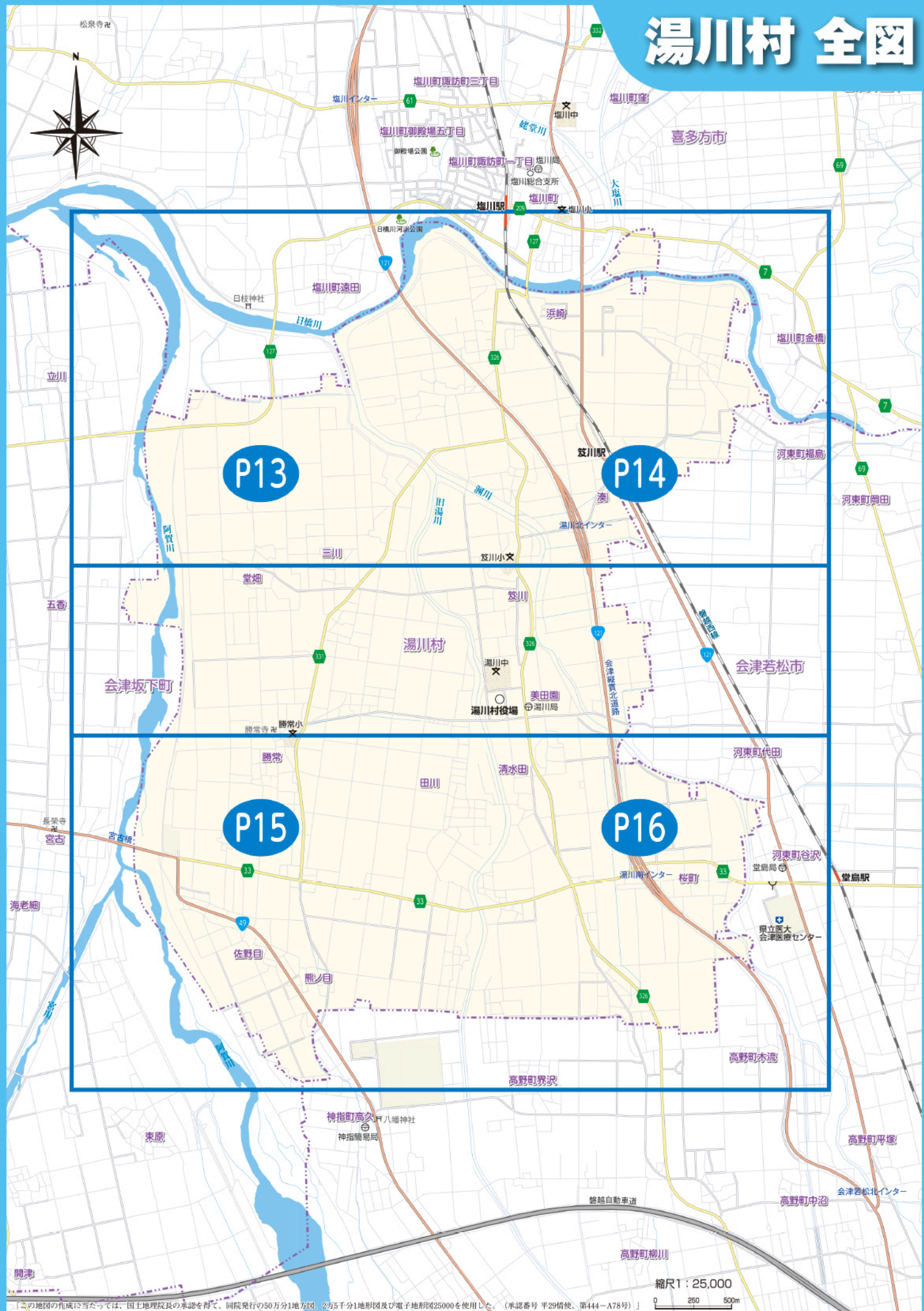
ライフライン関連機関

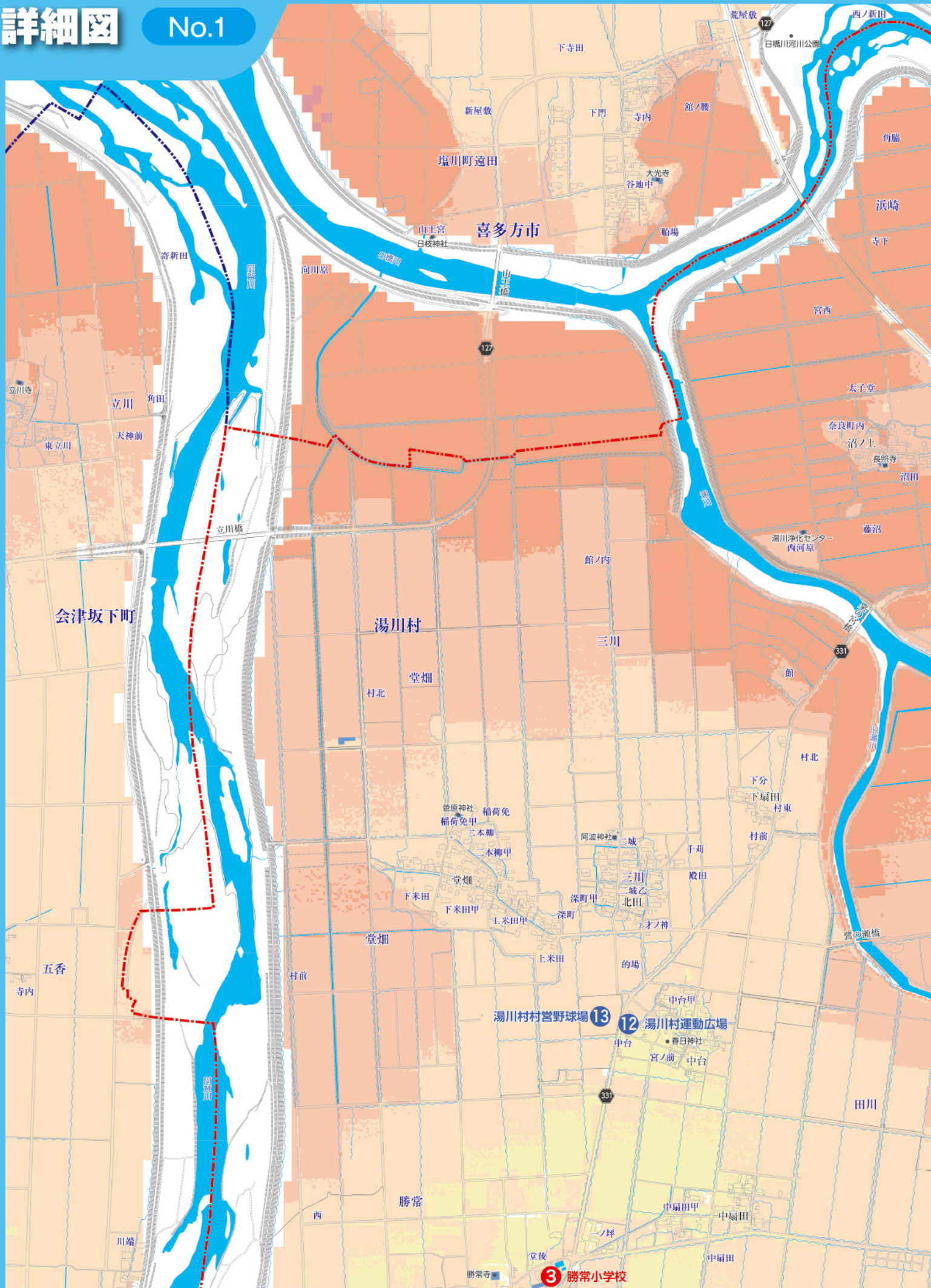
名 称	電話番号	備 考
東北電力(株)	0120-175-366	東北電力コールセンター(停電・緊急時のお問い合わせ先)
NTT東日本	0120-444-113	故障・通信障害の発生等
会津若松市水道サービス(株)	0242-22-6171	水道の修理・漏水

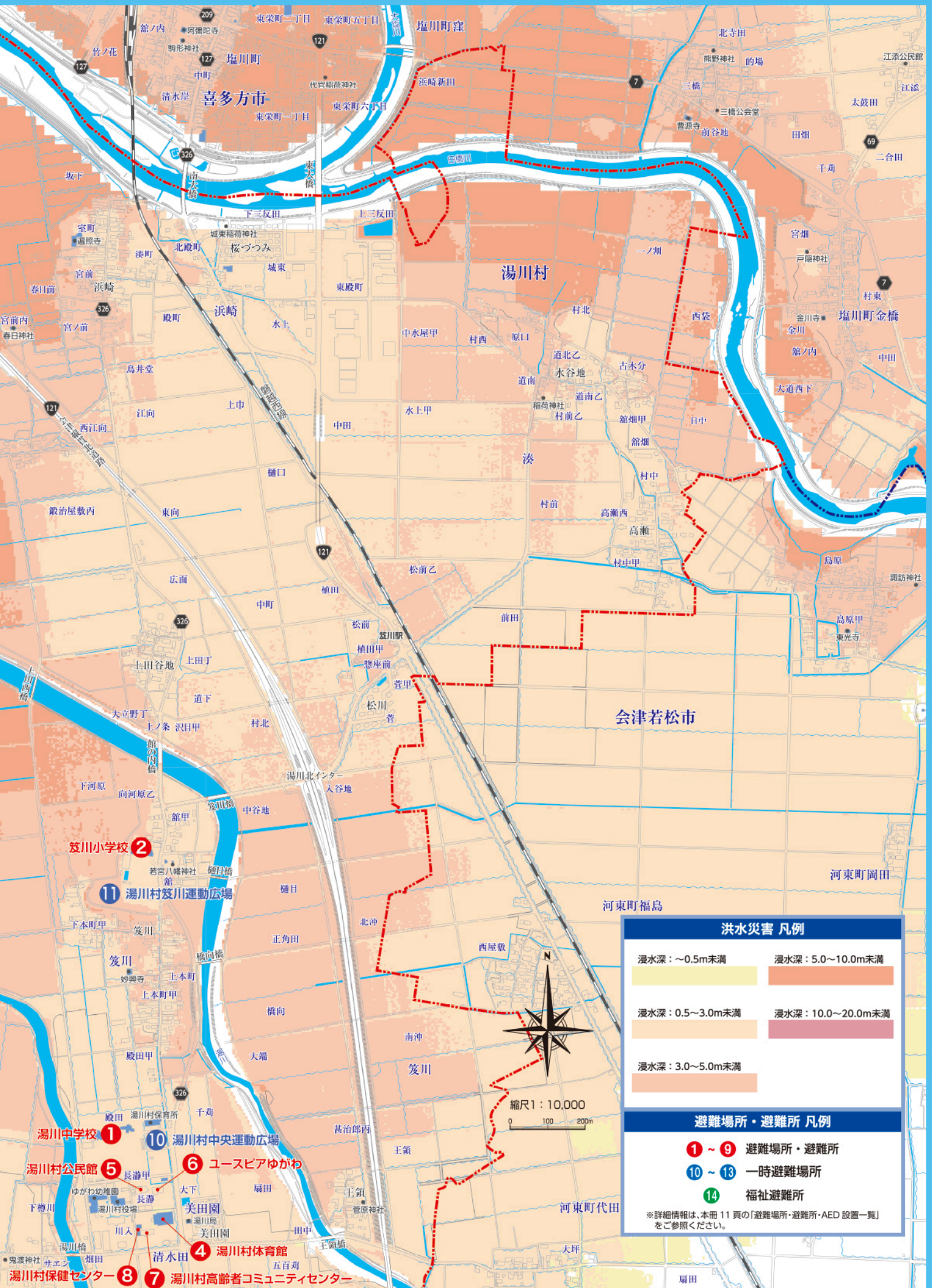
行政関係機関

名 称	電話番号	備 考
湯川村役場(代表)	0241-27-8800	
会津若松消防署	0242-25-1200	緊急時は「119」番
会津坂下警察署	0242-83-3451	緊急時は「110」番
福島県会津地方振興局	0242-29-5295	
福島県会津若松建設事務所	0242-29-5337	
国土交通省北陸地方整備局 阿賀川河川事務所	0242-26-6441	
国土交通省東北地方整備局 郡山国道事務所	024-946-0333	

湯川村 全国









磐梯山に関する火山情報について

磐梯山で発生が予想される噴火と主な火山災害

磐梯山の過去の噴火の特徴から3つの噴火形態を設定しました。各噴火形態の発生頻度、噴火規模、発生する現象は次のとおりです。

噴火形態	小規模水蒸気噴火	水蒸気噴火	マグマ噴火
発生頻度	過去1万年以内に多数発生	過去1万年以内に8回発生	過去1万年以内に1回発生
想定規模	100万m ³ (御嶽山2014年噴火と同程度)	3000万m ³ (磐梯山1888年噴火と同程度)	3000万m ³ (磐梯山1888年噴火と同程度)
発生現象	- 大きな噴石 - 降灰、小さな噴石 - 降灰後の土石流 - 火口噴出型泥流	- 大きな噴石 - 降灰、小さな噴石 - 火砕サージ - 降灰後の土石流 - 火口噴出型泥流	- 大きな噴石 - 降灰、小さな噴石 - 火砕サージ - 融雪型火山泥流(積雪期) - 降灰後の土石流 - 火口噴出型泥流

●水蒸気噴火

地下深くにある地下水が、マグマ等の熱で温められて水蒸気となり、その圧力で一気に爆発する現象です。噴火に伴って火口から火山灰や大きな噴石などが放出されます。

●マグマ噴火

地下から上昇してきたマグマが地表に放出される現象です。噴火に伴って火口から火山灰や大きな噴石などが放出されます。

磐梯山の噴火警戒レベル

種別	予報 警報	対象 範囲	レベル	火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者 等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)	居住地域およびそれより火口側	5(避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	(入山規制)	- 大規模噴火の発生。 - 噴火に伴う融雪型火山泥流が居住地域まで到達、あるいはそのような噴火が切迫している。
			4(避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。(可能性が高まっている)	警戒が必要な居住地域での避難準備、要配慮者の避難等が必要。		- 大規模噴火発生の可能性。 - 噴火に伴う融雪型火山泥流が発生し、噴火がさらに継続した場合、居住地域まで到達すると予想される。
警報	噴火警報(火口周辺)	火口から居住地域近くまで	3(入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備。	登山禁止、入山規制等危険な地域への立入規制等。	- 中規模噴火が発生し、火口から概ね3km以内に噴石飛散。 - 中規模噴火の発生が予想される。
		火口周辺	2(火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。	火口周辺への立入規制等。	- 小規模噴火が発生し、火口から概ね1km以内に噴石飛散。 - 小規模噴火の発生が予想される。
予報	噴火予報	火口内等	1(活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる。(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)		状況に応じて火口内への立入規制等。	現在の状態

磐梯山に関する火山情報について

磐梯山火山ハザードマップ(マグマ噴火)

湯川村では、磐梯山が**マグマ噴火した場合に融雪型火山泥流と降灰**による被害の発生が予想されます。
※降灰については、水蒸気噴火でもマグマ噴火と同程度の被害の発生が予想されます。

融雪型火山泥流 火口周辺に積雪が多くあるときに噴火に続いて発生します。

積雪期に噴火したとき、噴火の熱で火口周辺の雪が急速に融けて大量の水になり、溪流沿いの土砂や樹木を巻き込んで一気に流れ下る現象です。破壊力が大きく、また、広範囲に氾濫しやすいため大きな被害が発生しやすくなります。融雪による火山泥流は、噴火の熱量や積雪量などによって発生する量が大きく変化します。

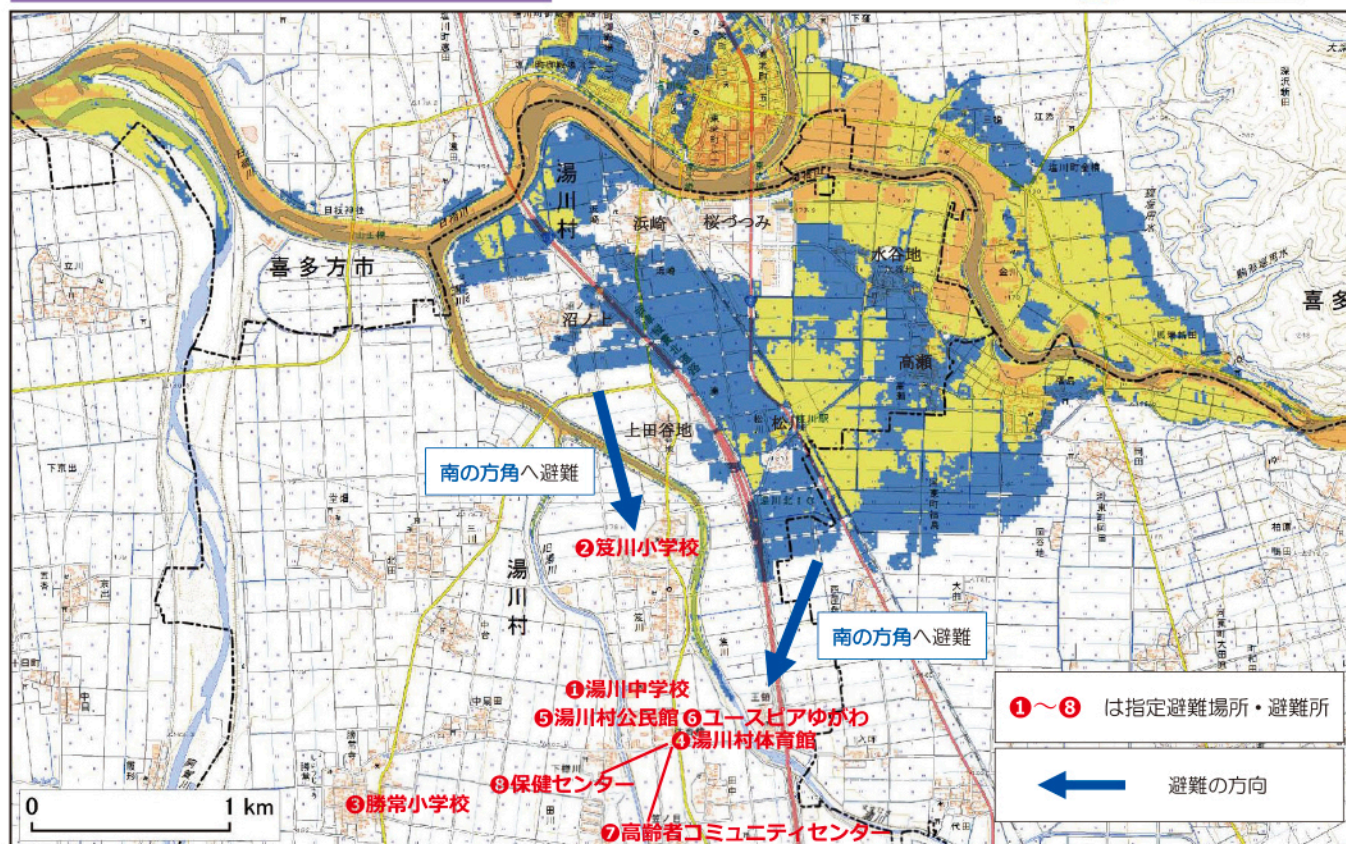
マグマ噴火の火山ハザードマップ



〈凡 例〉

- 想定火口範囲
 - 大きな噴石
 - 降灰(西風の場合)
※想定火口範囲の中心から噴火した場合
 - 降灰(西風以外の場合)
※想定火口範囲の縁から噴火した場合
 - 火砕サージ
※高温の噴出物やガスが混合して高速で下流へ流れる現象
 - ← 火砕サージの流下方向
 - 市町村境
 - 国道
 - 高速道路
 - 鉄道
- 融雪型火山泥流の浸水高
(目安となる氾濫水深)
- 2m以上
 - 2m未満～50cm以上
 - 50cm未満(大人のひざ上)
-

湯川村における融雪型火山泥流予想図



早めの避難があなたの命を救います

〔洪水時には〕

洪水時に堤防が決壊した場合には、氾濫水の勢いで堤防近くの家屋は破壊されたり流失したりする可能性があります。

そのようなときに避難せず家屋にとどまっていた場合には、人命に関わる事態の発生も予想されます。

洪水時には上流域も含めた雨量や河川水位情報などを早くから収集し、村からの避難情報などにも注意しながら、堤防が決壊する前には必ず避難が完了するよう早めの行動を心がけてください。

インターネットを利用したリアルタイム情報提供

全国の河川の「雨量」「水位」「河川予警報」等の情報をリアルタイムで提供することにより、近年頻発している大雨・集中豪雨による水害・水難時の迅速・的確な避難等が可能になります。

国土交通省「川の防災情報」

- ・パソコンから <http://www.river.go.jp/>
- ・携帯電話から <http://i.river.go.jp/>



福島県「河川流域総合情報システム」

- ・パソコンから
<http://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis/>

本書の使い方

本書は、いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めていきましょう。

本書の特徴

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常時は、地図部分や「わが家の防災・緊急情報メモ」ページを開いた状態で、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

発行：湯川村（問い合わせ：総務課 0241-27-8800）

<http://www.vill.yugawa.fukushima.jp/>

制作・著者：株式会社ゼンリン 郡山営業所

作成：平成30年3月